

あたたかいたべものの本とくしゅう

寒さが日々増してきます。あたたかいたべものの本を読んで、心もあたたまってください。

『せかいいちおいしいスープ』

マーシャ・ブラウン 文、絵 こみや ゆう 訳

ある村で食べ物を分けてほしいと頼んだものの、断られてしまった腹ペコの兵隊たち。仕方がないので「石のスープ」を作ることにしたが…。

(TRCMARK より抜粋)



岩波書店

『しらぎくさんのどんぐりパン』

なかがわ ちひろ 作

その小さなおばあさんの家は、たくさんのものたちであふれかえていました。さわこはガラスの小瓶を、せいやはちいさな青い石を手に取りました…。忘れ去られたものにちゃんと役割を与えてくれるしらぎくさんの魔法。

(TRCMARK より抜粋)



理論社

カレーライス

～『はじめての文学 重松 清』より～

重松 清 著

ゲームの約束をやぶってしまったひろしだったが、ぼくは悪くない、とお父さんと口もきかない。お父さん特製甘口カレーがやけに甘く感じる。そんなひろしが、風邪を引いたお父さんに謝る気持ちもこめて「中辛」カレーを作り…。



文藝春秋

『オムレツ屋へようこそ』

西村 友里 作 鈴木 びんご 絵

尚子は、しばらくの間「オムレツ屋」でくらすことになった。そこは伯父が家族で営む洋食屋さんだ。母さんのつごうにふりまわされる尚子にとって、あたたかな食事や家族の団らんはじめて味わう理想の家庭だった。

(TRCMARK より抜粋)



国土社

～みんなでみにいこうよう

こうよう

紅葉、なぜ色がかわるの？～

秋に、葉が赤くなるのはなぜでしょうか？
モミジのように、うすくてさむさに弱い葉をつける木は、秋には葉を落とすために、葉とえだのあいだに、かべのようなものをつくります。すると、葉でつくられたえいよう分が、えだにいかないで、葉の中にたまっていきます。

このえいよう分は、葉にたまると、赤い色のもとになり、いっぽう、もともと葉の中にあった、みどり色のもととはへっていくので、葉は赤くなるのです。また、葉が黄色くなるのは、赤い色のもととはつくられないで、もともとあった黄色い色のもとがめだつようになるからです。

花のたね・木の実のちえ③ モミジのつばさ 監修 多田 多恵子 偕成社 より



『花のたね・木の実のちえ③
モミジのつばさ』
監修 多田 多恵子
偕成社



『ひろって調べる
落ち葉のすかん』
安田 守 写真、文
中川 重年 監修
岩崎書店



『せんせい！これなあに？
◎おち葉』
構成、文 有沢 重雄
写真 亀田 龍吉
偕成社

いちょうやモミジがでてくる本を紹介しします。

しょうかい

『やまなし/いちょうの実』

みやざわ けんじ かわむら 絵
宮沢 賢治 作 川村 みづえ 絵



明け方の空の下、いちょうの実はみんな一度に目を覚ましました。そしてドキッとしたのです。今日は旅立ちの日でした。(『いちょうの実』より)

岩崎書店

『千年もみじ』

もがみ いっぺい なかむら えつこ 絵
最上 一平 文 中村 悦子 絵



若月さんのお父さんは、ともあきのおじいさんのお兄さん・喜一さんの知り合いだったそうです。若月さんは、戦時中のお父さんと喜一さんの約束を果たすため、千年もみじを見にきて…。

新日本出版社